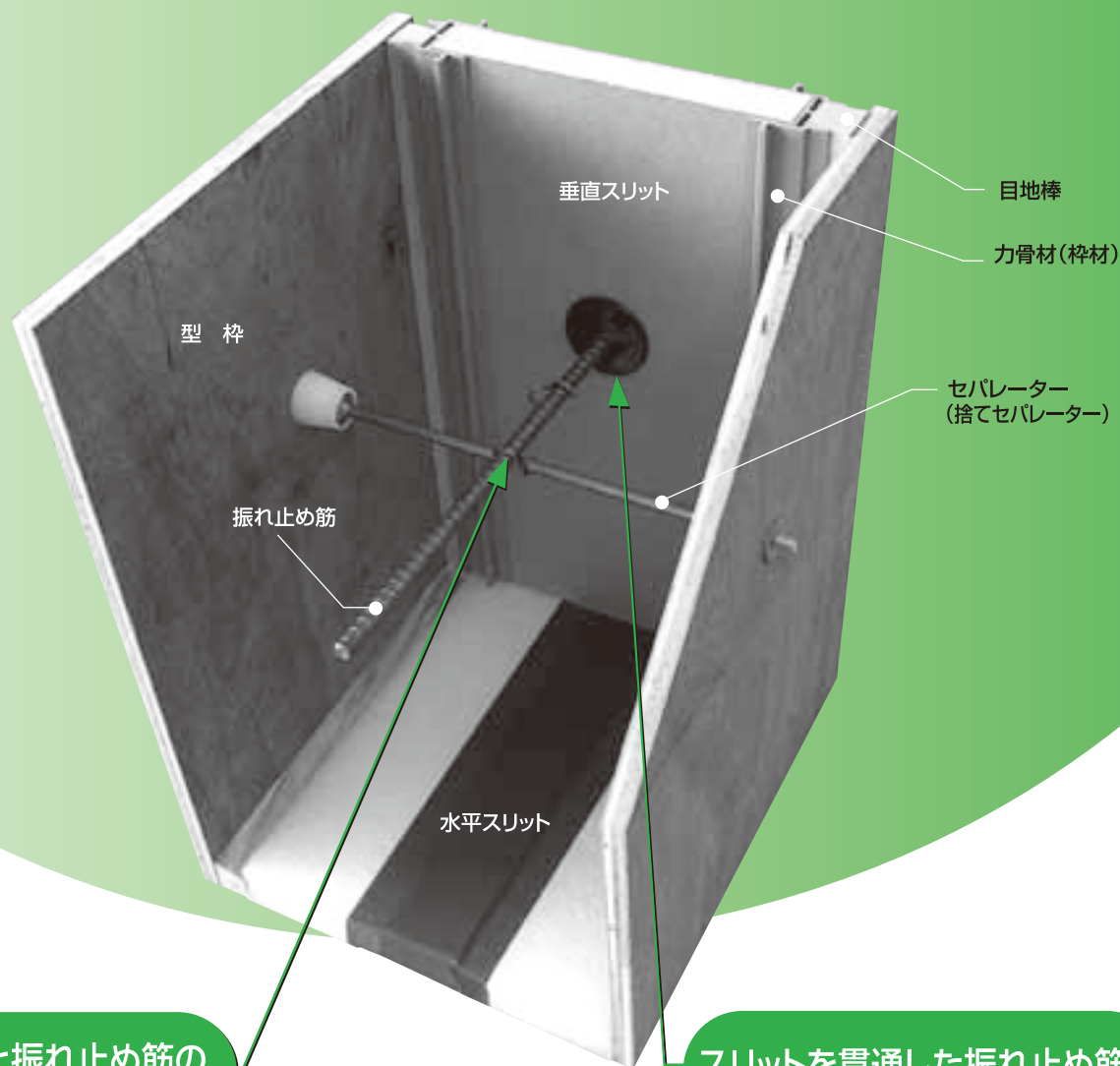


特許出願中

スリット®

J-スリット Ver.7

振れ止め筋で補強する理想的な耐震スリット



セパレーターと振れ止め筋の
交差部分は、**クリップ**で
ワンタッチ取り付け！

簡単施工

スリットを貫通した振れ止め筋の
固定は **ストッパー** を
差し込むだけ！

従来の補強金具型と自立型の長所を合わせ持つ
耐震スリット材

株式会社 JSP



J-スリット Ver.7

振れ止め筋で補強する理想的な耐震スリット

J-スリットの特徴

1.高品質製品の提供

- 都市再生機構(UR)の品質判定基準に合格
 - ・1時間耐火性能、水密(止水)性、スリット材に適した圧縮特性、セメントペースト耐浸透性を有する。
- 2時間耐火性能試験に合格(ISO 834-1に準拠)
- 遮音等級Dr-55相当(壁厚180mm)

2.施工精度が抜群に良い

- 垂直スリットの変形がない。
 - ・芯材が単一素材であるため、力骨材(枠材)からはずれ難く、コンクリート打設時に変形し難い。
 - ・振れ止め筋を補強金具に併用するため、補強金具の取り付けも簡単施工。
- 垂直と水平スリットの耐火材の位置合わせ不要。
 - ・垂直スリットは単一素材で耐火性能をクリアするため、面倒な耐火材の位置合わせがいらない。

3.止水処理が安心

- 垂直スリットの止水対策
 - ・躯体表面から力骨材(枠材)が10mm以上下がっているため、シーリングと躯体が確実に密着し高い止水性能を確保。
 - ・止水テープ(オプション)と力骨材(枠材)の水返し形状により、2次的な止水処理が可能。
- 水平スリットの止水対策
 - ・止水テープ(オプション)と打ち継ぎ目地材等の併用により、2次的な止水処理が可能。

目次

垂直スリット

製品規格	自立型 MTタイプ、自立補強型 MGタイプ、JLVタイプ	3
補強金具	MGタイプ用、JLVタイプ用	4
納まり図	垂直スリット納まり図例	5
施工手順	自立型 MTタイプ、コンクリート打設時の注意事項	6
	自立補強型 MGタイプ(MTタイプ+MG金具セット)	7
	自立補強型 JLVタイプ(MTタイプ+JLV台座+取付金具)	8
	片目地施工型 MT-Kタイプ	9

参考

振れ止め筋の設置について、梁下スリットを設ける場合	10
---------------------------	----

水平スリット

製品規格	MLタイプ(耐火品)、Lタイプ(非耐火品)	11
納まり図	水平スリット納まり図例	12
施工手順	MLタイプ(耐火品)	13

推奨副資材

製品規格	J-3000 (非加硫ブチルゴム系シーラント)、サビ止め振れ止め筋、 鉄筋養生カバー、保護キャップ	14
------	--	----

雨掛り妻壁用推奨部材

段差型打ち継ぎ目地材	DT、DTRタイプ	15~16
段差型打ち継ぎ目地材	UN、UWタイプ	17
勾配成型用欠込み材	レベルJ	18

試験データ

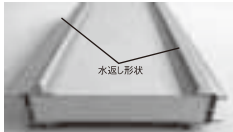
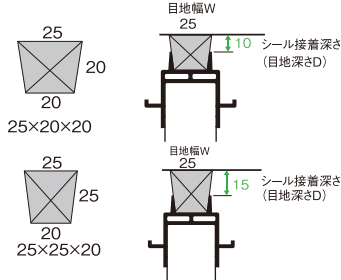
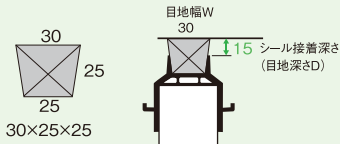
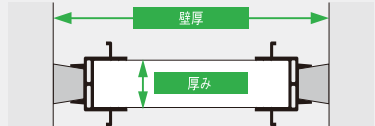
都市再生機構(UR)品質判定基準	19
2時間耐火性能試験 遮音試験	20

発注

発注時の確認事項	21
発注書	22

垂直スリット 製品規格

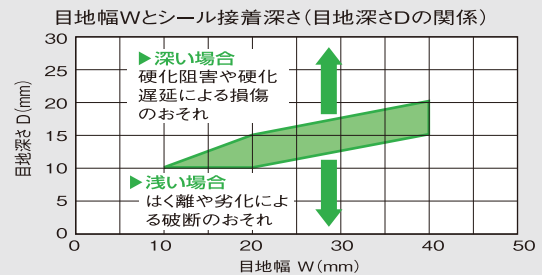
自立型MTタイプ、自立補強型MGタイプ、JLVタイプ

寸法(mm)		垂直スリット		
厚み	25・30・35・40・50	厚み	25・30・35	40・50
壁厚	100 ～ 250	形状	 スリット本体に炭酸カルシウム発泡体を使用	
長さ	2025 ・ 2300			
●壁厚250mm以上でも対応可能です。 ご相談をお願いします。		推奨 目地棒サイズ		
 ●必ず壁厚 [※] と目地棒サイズ [※] をご指示ください。				
枠材色		黒		黒
対応 最小壁厚		目地棒サイズ25×25×20の場合 110mm		110mm

ワーキングジョイント部のシール接着深さについて

目地棒の目地幅Wによって、躯体面とシーリング材の接着深さ(目地深さD)は図の範囲で設定するのが好ましい。

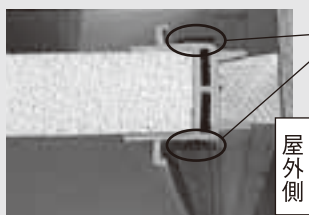
建築工事標準仕様書・同解説JASS8 防水工事 (社)日本建築学会 より



品番	自立型	自立補強型	
	MTタイプ	MGタイプ	JLVタイプ
納まり例			
備考	壁厚210mm(ふかし込み)以下の対応	MTタイプ+MG金具セット D10振れ止め筋を補強金具に併用	MTタイプ+JLV台座+取付金具 D13以上の振れ止め筋の場合 振れ止め筋を使用しない場合

垂直スリット オプション

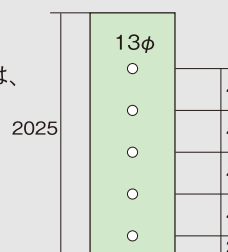
止水テープ貼り



ブチルテープ
厚み1mm×幅15mm(両側)または、
厚み3mm×幅15mm(両側)

屋外側

鉄筋用穴開け



現場でのドリル加工も可能

●壁厚120mm以上からの対応となります。(目地棒サイズ25×20×20の場合)

●その他オプション加工に関してはご相談下さい。

垂直スリット 補強金具

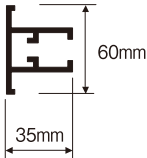
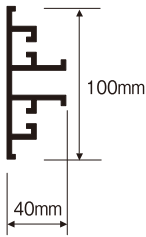
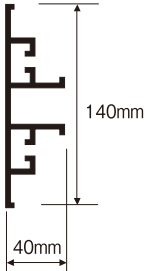
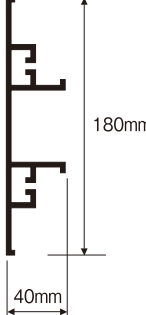
MGタイプ用、JLVタイプ用

MGタイプ用補強金具

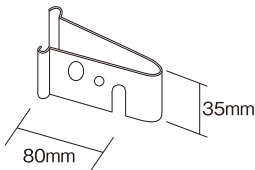
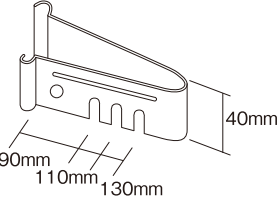
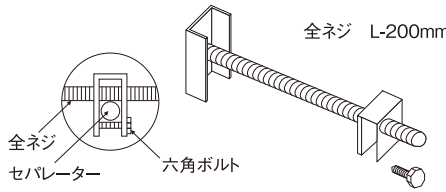
円型ストッパー		クリップ	
●D10用  特許 第3897721号		●D10用 	
振れ止め筋			
振れ止め筋 現場調達  JIS規格品SD295A D10(一般的な長さは550mm)の 異形棒鋼を現場調達お願い致します。			
MG5 金具セット	L:2025用 円型ストッパー5個・クリップ5個／本	MG10 金具セット	L:2025用 円型ストッパー10個・クリップ5個／本
	L:2300用 円型ストッパー6個・クリップ6個／本		L:2300用 円型ストッパー12個・クリップ6個／本
※MGタイプは壁厚150mm以上からの対応となります。(目地棒サイズ25×20×20の場合)			

JLVタイプ用補強金具

●JLV台座をMTタイプに取り付けた状態で納入します。

	#60	#100	#140	#180
JLV台座				
対応壁厚の 目安	210～250	255～300	305～375	380～460
	※JLV台座#60の取り付けは壁厚160mm以上からの対応となります。(目地棒サイズ25×20×20の場合) ※壁厚250mm超の場合は、あくまでも目安ですので、建築物を設計及び施工・管理する方がご判断ください。			

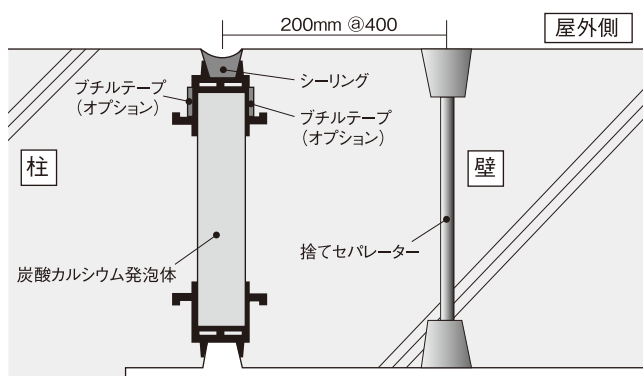
●取付金具は必要個数を別途発注お願い致します。

	JC金具	JCL金具	JB金具
取付金具			
必要個数の 目安	JLV台座#60の場合 3ヶ/m(L2025の場合 6ヶ L2300の場合 7ヶ)		
	JLV台座#100、#140、#180の場合 6ヶ/m(L2025の場合 12ヶ L2300の場合 14ヶ)		

垂直スリット 納まり図

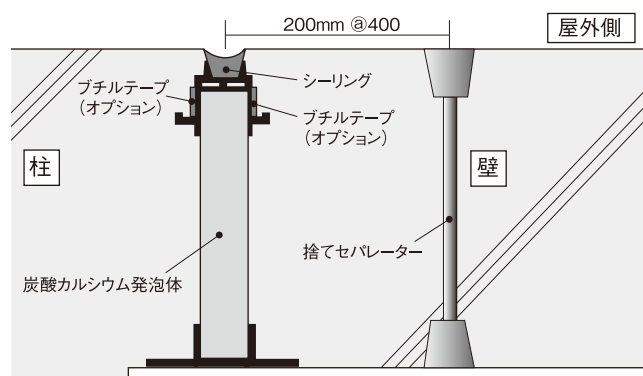
垂直スリット納まり図例

自立型MTタイプ(両目地施工)

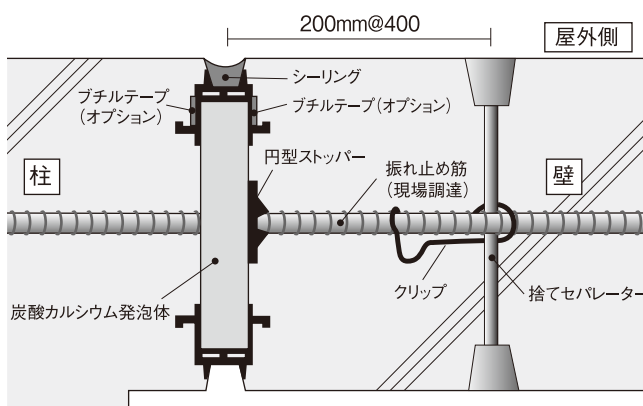


*MTタイプは ふかし込みで壁厚210mmまでの対応となります。

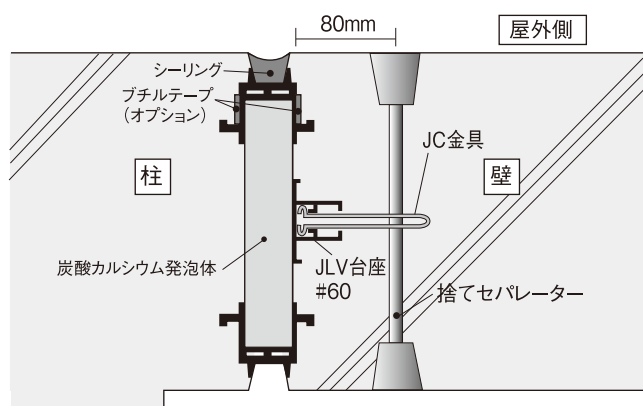
自立型MT-Kタイプ(片目地施工)



自立補強型MGタイプ



自立補強型JLVタイプ



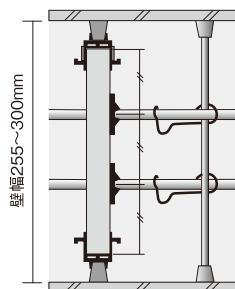
*JLV台座#60+JC金具の場合

壁厚255mm～500mmの対応

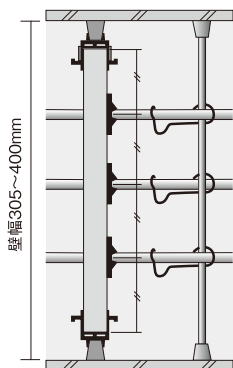
壁厚が255mm以上の場合、振れ止め筋とMG金具セットを並列に使用する方法が挙げられますが、あくまでも目安ですので建築物を設計及び施工・管理する方がご判断ください。

壁厚255mm～500mmの場合

●壁厚255～300mmの場合



●壁厚305～400mmの場合



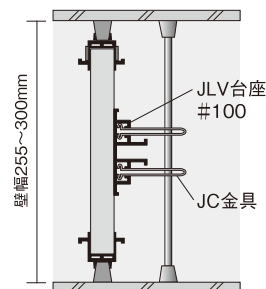
●壁厚500mmの場合
MG金具セットを壁厚方向に均等に4本使用します。

壁厚255mm～460mmの対応

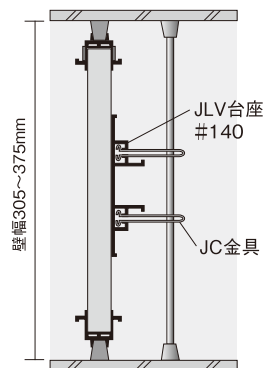
壁厚が255mm以上の場合は、あくまでも目安ですので建築物を設計及び施工・管理する方がご判断ください。

壁厚255mm～460mmの場合

●壁厚255～300mmの場合



●壁厚305～375mmの場合



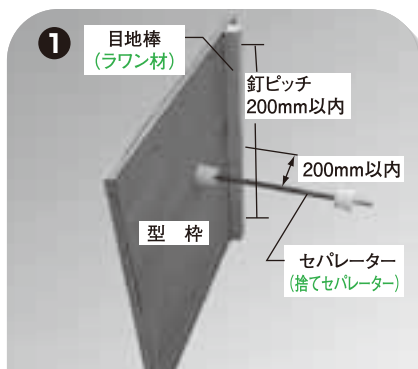
●壁厚380～460mmの場合
JLV台座#180をMTタイプに取り付けた製品を使用します。

垂直スリット 施工手順 (自立型)

MTタイプ

●MTタイプは壁厚210mm以下(ふかし込み)の対応となります。

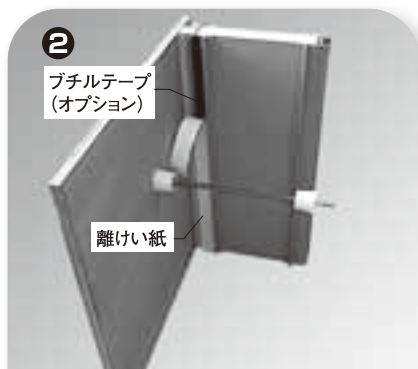
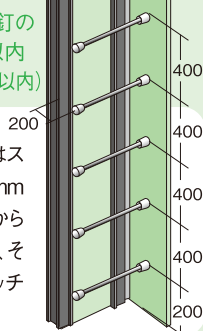
但し、これらの壁厚でも階高の高い場合、腰壁等を使用する場合は、自立補強型での施工をお勧めします。



型枠に目地棒(ラワン材)を取り付ける。

・目地棒を取付ける釘のピッチは200mm以内
厳守(端部は50mm以内)

セパレーター組立はスリット本体から200mm以内の位置で下から200mmに1箇所、そこから400mmピッチで取り付ける。



スリット本体を目地棒に差し込む形で取り付ける。

・止水テープが貼ってある場合は止水テープのある方を屋外側に設置し必ず離けい紙を剥してください。



もう一方の型枠にも目地棒を取り付けてスリットを型枠で挟み込み固定する。

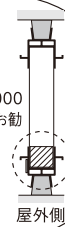
スリットをつなぐ場合

・長さが短い方を必ず天井側にする。



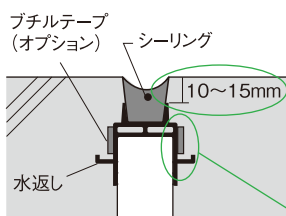
推奨

木口同士はJ-3000を塗布することをお勧めします。



J-スリット力骨材(枠材)の特徴

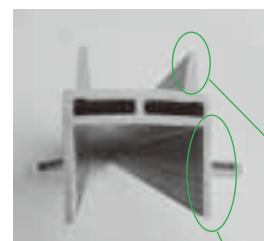
①止水性能が高い



躯体表面から力骨材が下がっている
シーリングが躯体に密着するため
止水性能が高い

プチルテープ(オプション)と水返し
2次的な止水処理が可能

②コンクリート打設時に変形し難い



J-スリットは、力骨材(枠材)と目地棒
および芯材との勘合力が強い
ため、耐側圧強度が高い。

目地棒との勘合部

・開き防止形状
・滑り止めライン
・適正な傾斜角度

芯材との勘合部

勘合部が長い ・抜け防止突起

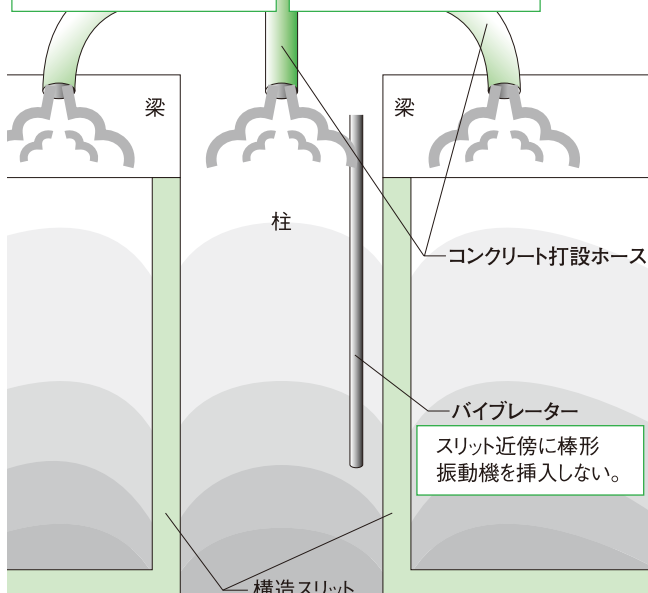
コンクリート打設時の注意事項

スリット材の変形は断面欠損となりますので、充分にご注意願います。

- ①スリットの位置が作業者に判るようにスラブ上に掲示する。
- ②コンクリート打設時の片打ち高さは1.5m以内。
均等打設を行う。
- ③コンクリートの打設速度は20m/hr.以内。
- ④スリットに直接バイブレータを当てない。

柱中へはホースから直接落とさず、梁から柱の中に入れる。

同一高さになるように、壁、柱を交互に打設する。



垂直スリット 施工手順 (自立補強型)

MGタイプ(MTタイプ+MG金具セット)

●鉄筋(振れ止め筋)はJIS規格品のSD295A D10 異形棒鋼を現場調達お願い致します。

振れ止め筋 現場調達

MG5タイプ(MTタイプ+MG5金具セット) 柱側から打設する場合

1 目地棒 (ラワン材)

釘ピッチ 200mm以内

200mm以内

型 枠

セパレーター (捨てセパレーター)

型枠に目地棒(ラワン材)を取り付ける。

- 目地棒を取付ける釘のピッチは200mm以内厳守(端部は50mm以内)

2 ブチルテープ (オプション)

離けい紙

スリット本体を目地棒に差し込む形で取り付ける。

- 止水テープが貼ってある場合は止水テープのある方を屋外側に設置し、必ず離けい紙を剥してください。

3 円型ストッパー

取り付け方向

250mm

こちら側をスリット本体に差し込む

ストッパーを振れ止め筋の中央部に取り付け。

(図は振れ止め筋の長さが550mmの場合)

※円型ストッパーは、取り付け方向の逆方向には動かさないでください。

ストッパーとスリット本体は隙間のないように取り付け。

250mm

スリットをつなぐ場合

屋外側

ブチルテープ

J-3000

部:J-3000塗布部

推奨

木口同士はJ-3000を塗布することをお勧めします。

屋外側

4

柱 側

壁 側

捨てセパレーターの位置に合わせ、スリットに穴を開け、ストッパーを取り付けた鉄筋を差し込む。

- 鉄筋はセパレーターの上に乗せる。

5

クリップで鉄筋とセパレーターを確実に固定する。

1.

クリップ

2.

3.

13φ

400mm

2025mm

13φ

200mm

鉄筋を差し込む穴は、高さが2025mmの場合、13mmφで下から200mmに1箇所、そこから400mmピッチで4箇所に開ける。

6

もう一方の型枠にも目地棒を取り付けてスリットを型枠で挟み込み固定する。

- 目地棒を取付ける釘のピッチは200mm以内厳守(端部は50mm以内)

MG10タイプ (MTタイプ+MG10金具セット)

壁側から側圧のかかる場合は、MG10タイプ(自立補強型)での施工をお勧めします。

施工手順は、製品同梱の施工手順書を参照願います。

MG10タイプ断面図

スリット

円型ストッパーをスリットの両側に取り付ける。

垂直スリット 施工手順 (自立補強型)

JLVタイプ(MTタイプ+JLV台座+取付金具)

- 取付金具はセパレーターとの距離によってJC金具、JCL金具、JB金具よりお選びください。
- 取付金具は必要個数を別途発注お願い致します。

MTタイプ+JLV台座+JC金具の場合

1

目地棒 (ラワン材)
釘ピッチ 200mm以内
型 枠
セパレーター (捨てセパレーター)

型枠に目地棒(ラワン材)を取り付ける。
・目地棒を取付ける釘のピッチは200mm以内厳守(端部は50mm以内)

2

スリット本体
目地棒
捨てセパレーター

スリット本体を目地棒に差し込む形で取り付ける。
・止水テープが貼ってある場合は止水テープのある方を屋外側に設置し、必ず離けい紙を剥してください。

スリットをつなぐ場合

推奨
木口同士はJ-3000を塗布することをお勧めします。

屋外側
ブチルテープ
J-3000
部: J-3000塗布部

・長さが短い方を必ず天井側にする。

3

JC金具

JC金具でスリットとセパレーターを固定する。

JC金具はセパレーターに確実にセットする。

JLV台座#60の場合
目安としてJC金具は3ヶ/mで使用する。

JC金具
80mm

4

目地棒 (ラワン材)
JC金具
型 枠
セパレーター (捨てセパレーター)

型枠に目地棒(ラワン材)を取り付ける。
・目地棒を取付ける釘のピッチは200mm以内厳守(端部は50mm以内)

取付金具のピッチ参考図

JC金具
300mm
300mm
300mm
300mm
150mm

※JC金具、JCL金具、JB金具の取り付けピッチは同様です。

MTタイプ+JLV台座#60+JCL金具の場合

JCL金具
90mm 110mm 130mm

JLV台座#60の場合
※目安としてJCL金具は3ヶ/mで使用する。

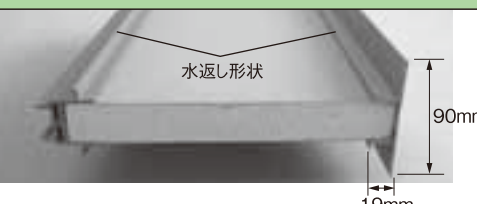
垂直スリット 施工手順 (片目地施工型)

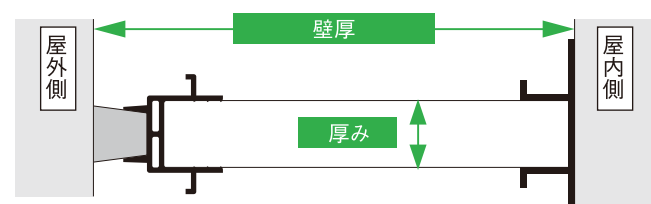
MT-Kタイプ

自立型 :MT-Kタイプ【壁厚は180mm(ふかし込み)以下の対応】

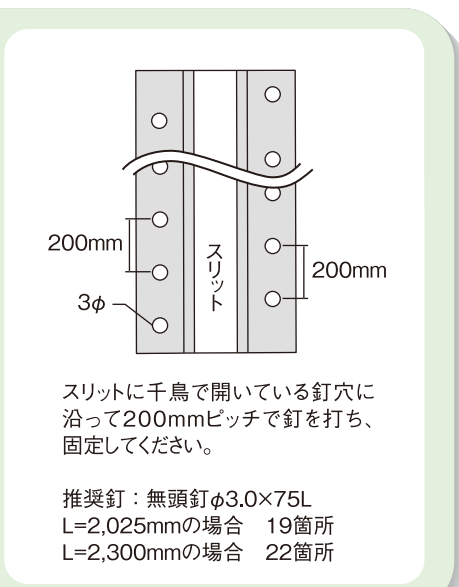
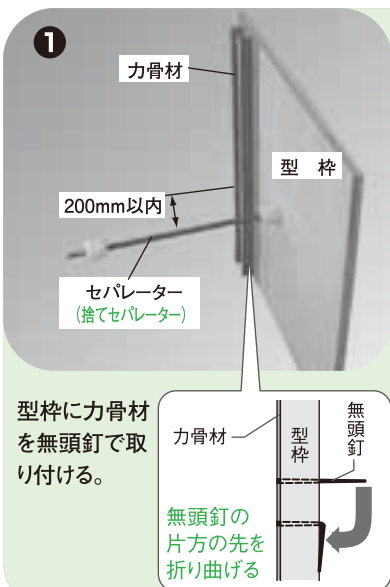
自立補強型:MG-K ※MG-Kタイプは、P7のMGタイプをご参考ください。

●製品規格

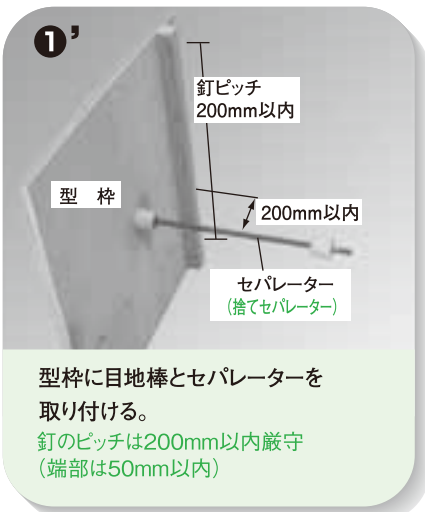
寸法(mm)		垂直スリット 片目地タイプ	
厚み	25・30		●スリット本体に炭酸カルシウム発泡体を使用 ●枠材色：黒
壁厚	100～250		
長さ	2025、2300		

	●必ず壁厚さと目地棒サイズをご指示ください。 推奨目地棒サイズは25×20×20mm、25×25×20mmです。 ※屋内側の段差処理が不要です。
---	---

MT-Kタイプで内型枠先行の場合



MT-Kタイプで外型枠先行の場合



振れ止め筋の設置について

完全スリットによって柱や梁と切り離された二次壁が、地震等で面外方向に動くことがないように、スリット部にD10ー@400程度の振れ止め筋を設置する。

解 説

完全スリットは二次壁と構造体(柱、梁)を切り離すことを目的としているため、本来スリット部は無筋であることが望ましいが、無筋だと地震等で二次壁が面外に動く可能性があるため、一般的に振れ止め筋を設置して面外方向の動きを拘束している。

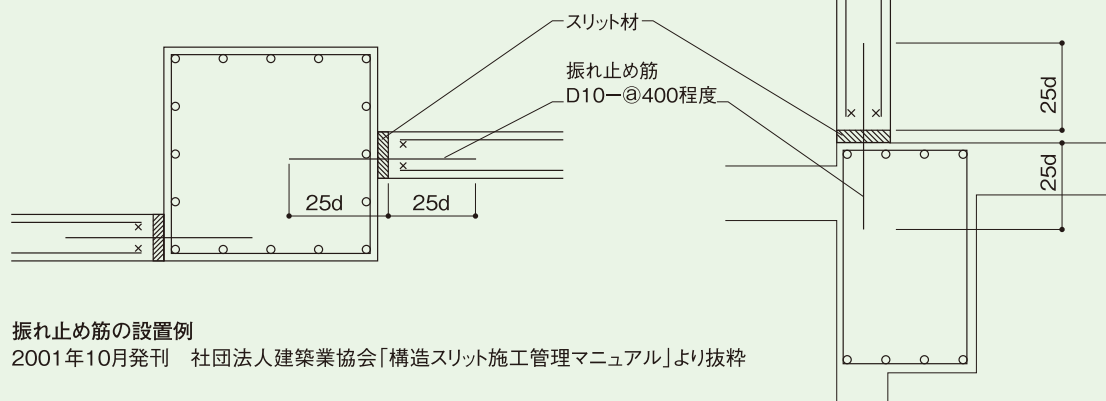
●振れ止め筋の径及び間隔

振れ止め筋は二次壁を面外方向に拘束するだけでなく面内方向にも拘束するため、過度の鉄筋を入れるとスリットの効果を阻害する恐れがある。

振れ止め筋の径及び間隔は構造図によることを原則とするが、一般的にはD10ー@400程度としている。

D10ー@400程度の鉄筋であれば、地震時に二次壁に作用する慣性力に対し、面外方向の振れ止め効果は十分である。

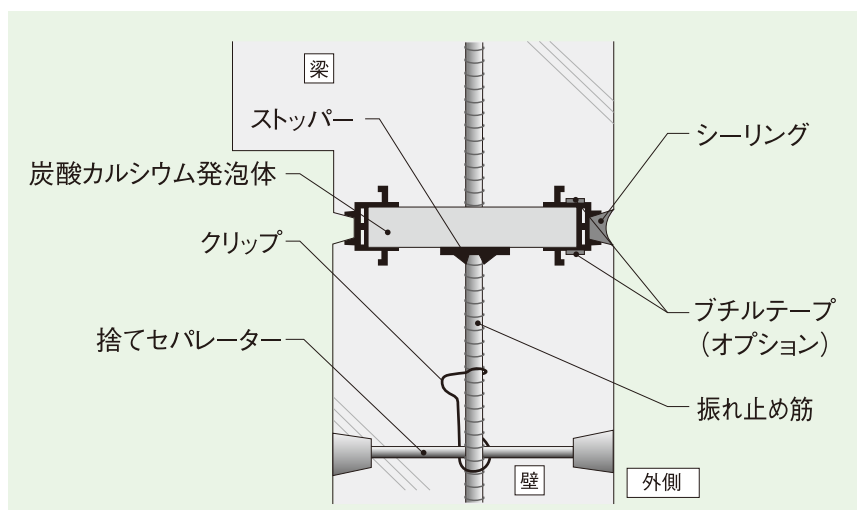
また、柱・梁の剛性に比べ鉄筋の剛性が小さいことから、振れ止め筋がスリットの効果を阻害することは少ないと考える。



梁下スリットを設ける場合

下図の様に梁下にスリットを設ける場合にはJ-スリット・垂直スリットを水平方向に用いて使用します。コンクリート打ち込み時に局所荷重がかかる恐れがあるため、自立補強型(MGタイプ)で施工します。

ただし、このようなスリットの設け方だと、コンクリートを流し込むための隙間を空ける必要があり、スパンの短い袖壁などにしか、梁下にはスリットを設けることが出来ません。また、コンクリートが廻りづらいのと、施工性がよくないため、梁下よりも梁上にスリットを設けることをお勧めします。



水平スリット 製品規格

MLタイプ(耐火品)、Lタイプ(非耐火品)

寸法(mm)			
厚み	幅	長さ	●幅は250mm以上でも対応可能です。 ご相談をお願いします。
25・30・35・40・50	100～250	2000	

水平スリット

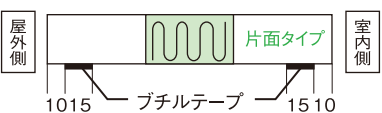
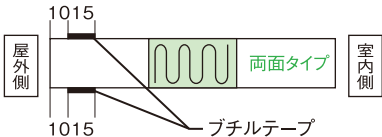
耐火品		非耐火品
MLタイプ		Lタイプ
		
材 質		
ポリエチレン発泡体とロックウールの複合品を使用		ポリエチレン発泡体を使用
スラブ面の不陸追従性良好 柔軟性のあるポリエチレン発泡体のため、ある程度の不陸のある躯体面に密着します。		Lタイプは幅45～250mmとなります。

水平スリットオプション

止水テープ貼り

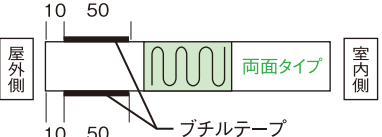
●ブチルテープ幅15mmの場合:

厚みは1mmまたは3mm

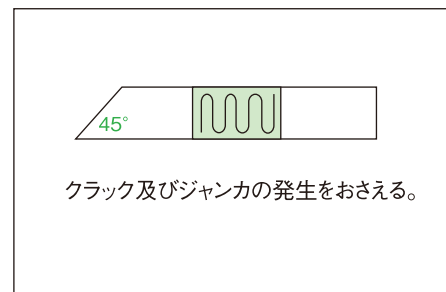
Aタイプ 端から10mm離れた所から貼ってあります。 	
Bタイプ 端から10mm離れた所から貼ってあります。 	

●ブチルテープ幅50mmの場合:

厚みは1mm

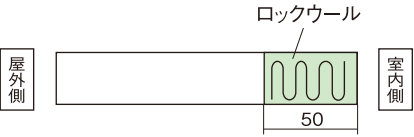
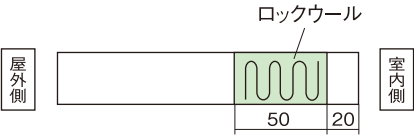
Aタイプ 端から10mm離れた所から貼ってあります。 	
Bタイプ 端から10mm離れた所から貼ってあります。 	

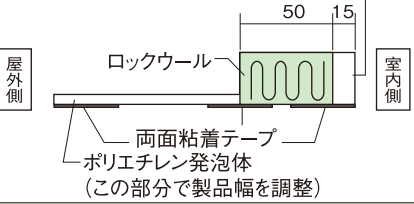
コーナカット



●その他オプション加工に関してはご相談下さい。

片寄せタイプ

ML-Kタイプ  止水テープは上記よりお選びできます。 製品幅70～90mmの場合はML-Kタイプの対応となります。	ML-Hタイプ  止水テープは上記よりお選びできます。 レベルJを使用する場合はML-Hタイプをお勧めします。
設計価格は、MLタイプと同じです。	

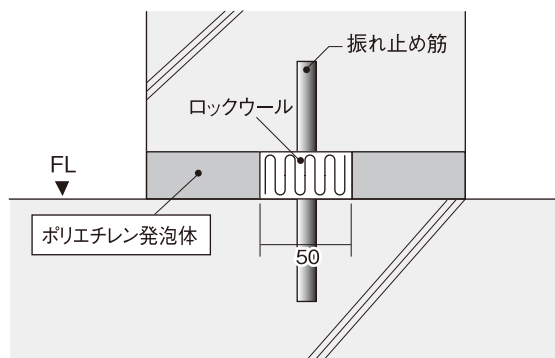
ML-Mタイプ  このような形状でも対応可能です。 このタイプは、隙間面積が減少することから他タイプと同等以上の遮音性が見込めます。

水平スリット 納まり図

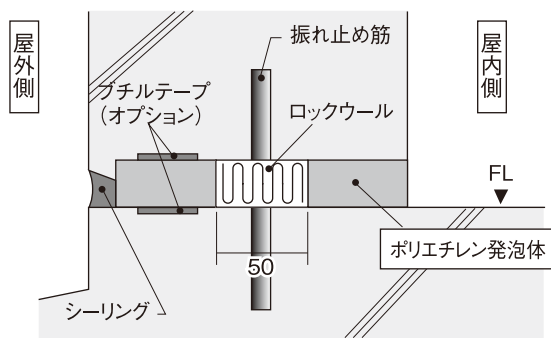
水平スリット納まり図例

一般部

内壁などで下地処理がある場合

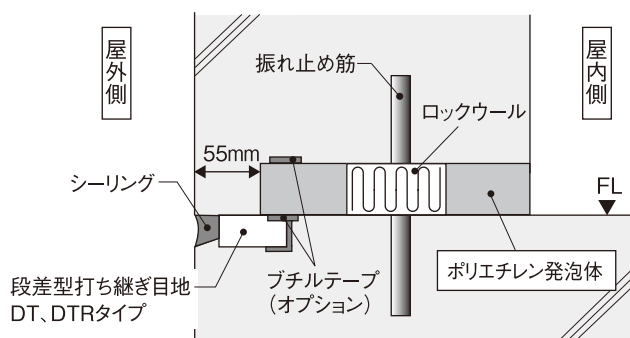


外壁など



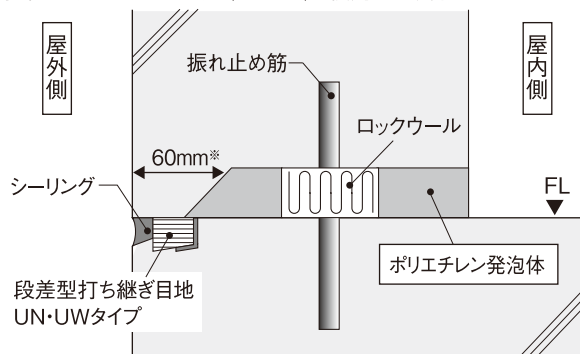
雨掛り妻壁等

DTタイプ



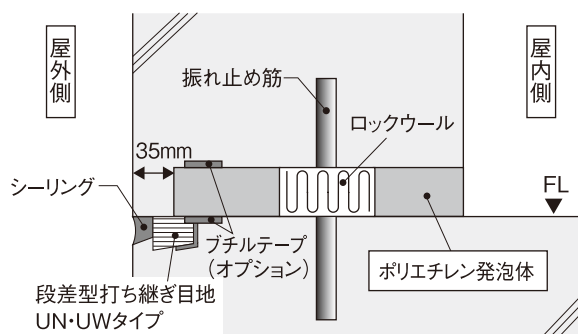
UNタイプ・UWタイプ

水平スリット コーナークット (Cタイプ) を使用した場合



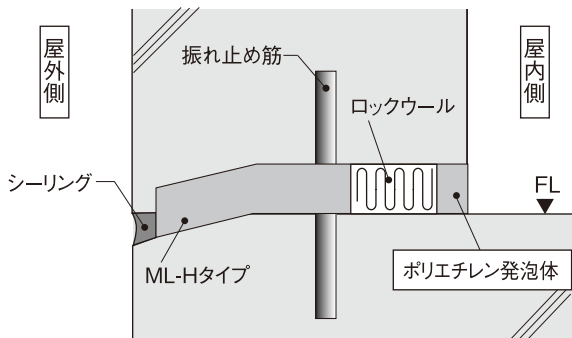
※水平スリットの厚みが25mmの場合

UNタイプ・UWタイプ

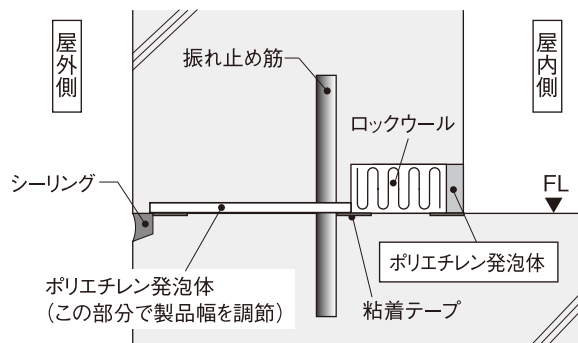


レベルJ

水平スリット ML-Hタイプを使用した場合



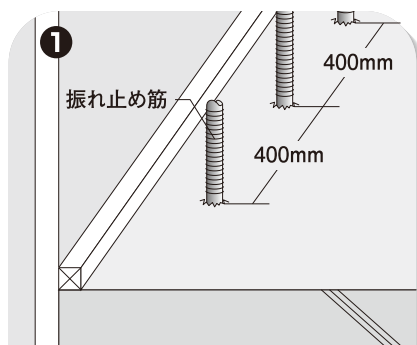
ML-Mタイプ



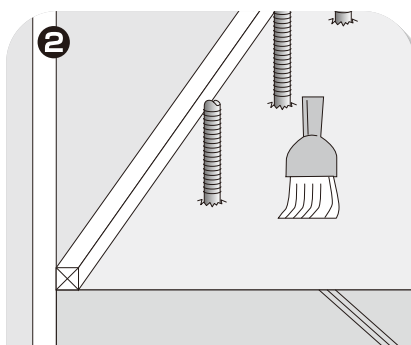
※打ち継ぎ目地は、梁の欠損になる場合があるため、ご使用の際は、設計者にご相談をお願いします。

水平スリット 施工手順

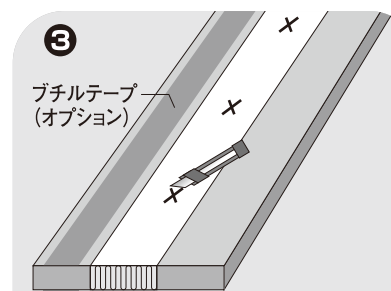
MLタイプ(耐火品)



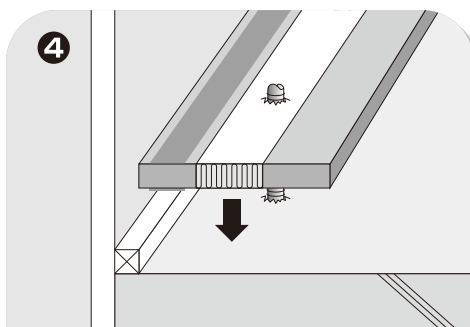
1 スラブより振れ止め筋が出ている場合。
(通常D-10@400が多い)



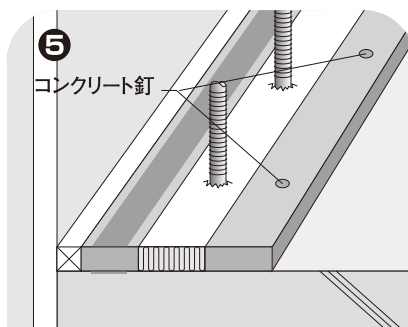
2 スリット施工前に、スリット取付部のスラブ面の清掃を行ってください。



3 水平スリットの振れ止め筋と当たる場所をカッターで×(バテン)型に切り込みを入れる。



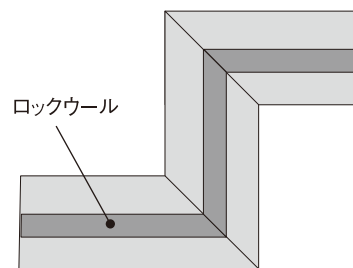
4 切り込みを入れた場所に振れ止め筋を貫通させる。
・止水テープが貼ってある場合は止水テープの貼ってある方を屋外側に設置し、必ず離れ紙を剥してください。



5 スラブ面に設置して完了です。
飛散防止のためコンクリート釘で固定することをおすすめします。

注意事項

水平スリット平面図



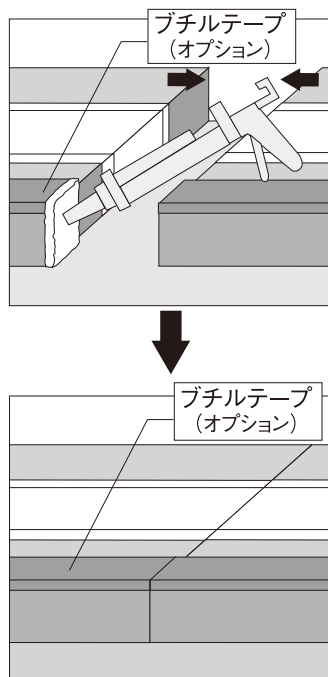
・出隅入隅がある場合は耐火材が連続するように施工する。

推奨

止水対策として以下の施工をお勧めします。

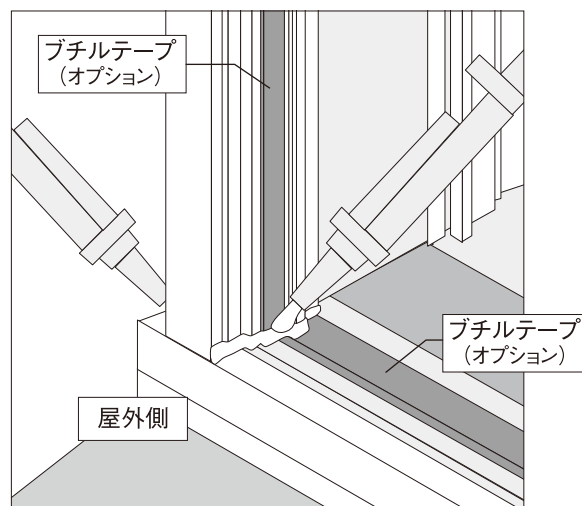
水平スリットをつなぐ場合

●製品端部は、J-3000を塗布し、防水層が連続するように施工してください。



垂直スリットと水平スリットの取合部

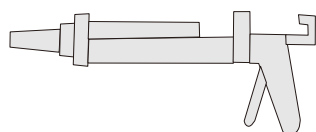
●垂直スリットと水平スリットのブチルテープとが、十分密着していない場合は、J-3000を十分に塗布し、防水層が連続するように施工してください。



推奨副資材

J-3000 (非加硫ブチルゴム系シーラント)、サビ止め振れ止め筋、鉄筋養生カバー、保護キャップ

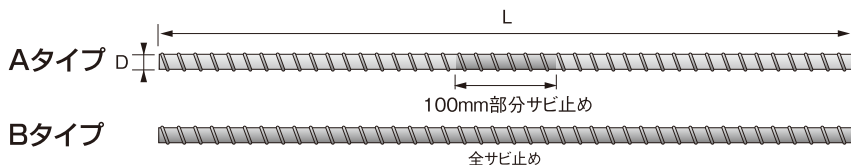
J-3000(非加硫ブチルゴム系シーラント)



5×10mmで約5m
(ガンは現場調達)

- 垂直スリットと水平スリットとの重なる部分、水平スリットの木口部分など防水層がぎれる場合等に止水対策として使用することをお勧めします。

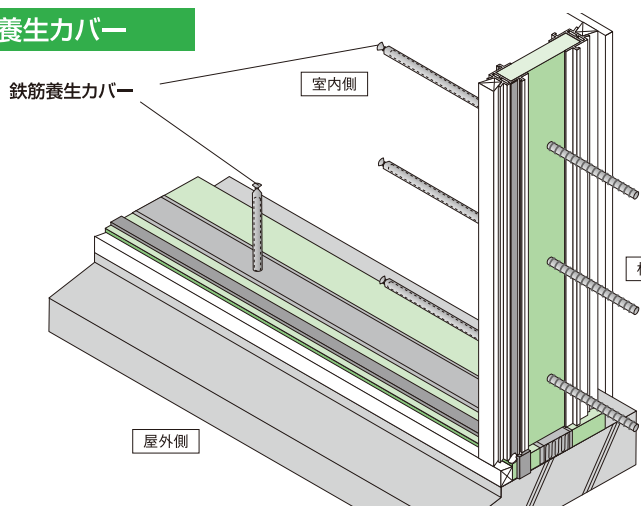
サビ止め振れ止め筋(KS振れ止め筋 Aタイプ Bタイプ)



規格	長さL	表面処理
D10	550mm	Aタイプ:部分サビ止め Bタイプ:全サビ止め

- 振れ止め筋のサビ防止のため、必要な場合はAタイプ、Bタイプから選択して使用することをお勧めします。

鉄筋養生カバー



鉄筋養生カバー

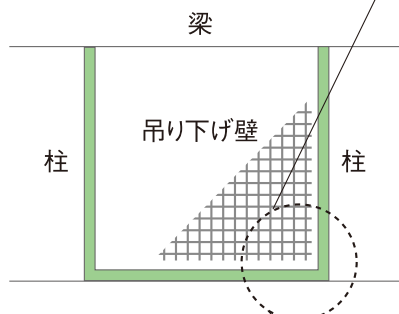


種別	内径	外径	長さ
D10用	13mm	33mm	2,000mm

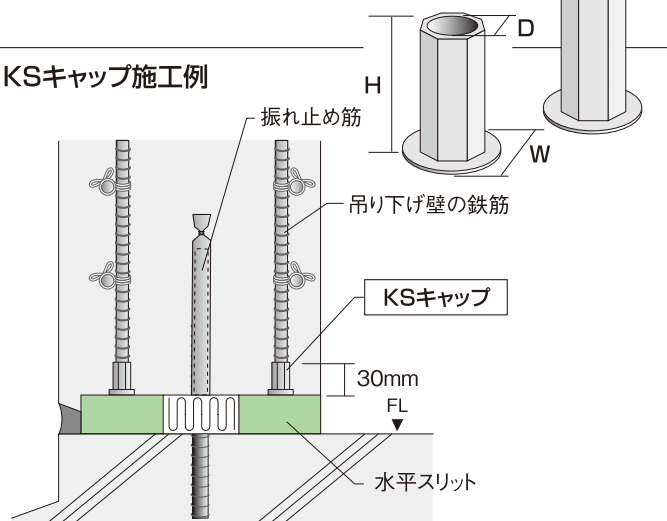
- 振れ止め筋に鉄筋養生カバーをかぶせることで、地震時に振れ止め筋にかかる荷重を軽減し、二次壁にひび割れが発生することを防止します。
(社団法人 建築業協会 構造スリット施工管理マニュアル 2001年10月発刊)

構造スリット材保護キャップ(KSキャップ)

- 壁配筋によるスリット材の破損を防止するため、KSキャップの使用をお勧めします。



KSキャップ施工例



「KSキャップ」は、吊り下げ壁の鉄筋によるスリット材の破損を防止します。これにより漏水を防ぎます。また、漏水等による鉄筋のサビを防止し、建築物の耐久性を確保します。

規格	
W×H	25mm×30mm
径D	D10・D13併用
	1袋:300個

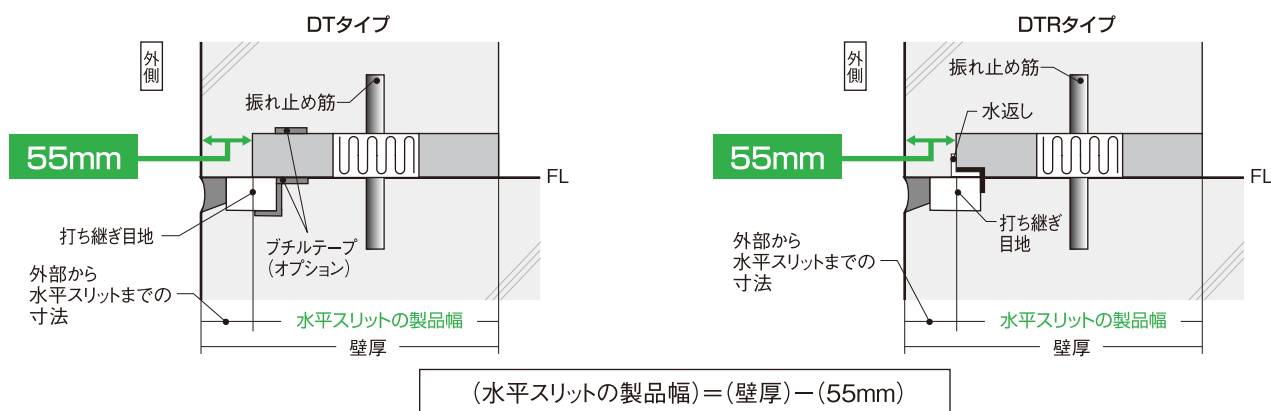
かぶり厚さを確保するためには、鉄筋を梁等から吊る工夫が必要(社団法人 建築業協会 構造スリット施工管理マニュアル 2001年10月発刊)

●目地上部の破損防止、雨水侵入防止対策として有効なため、このタイプをお勧めします。

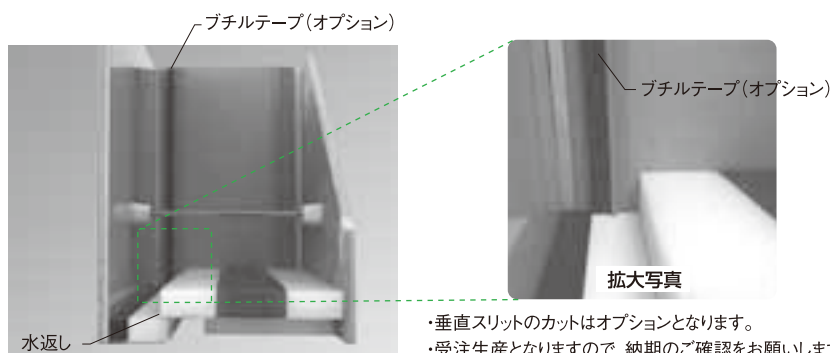
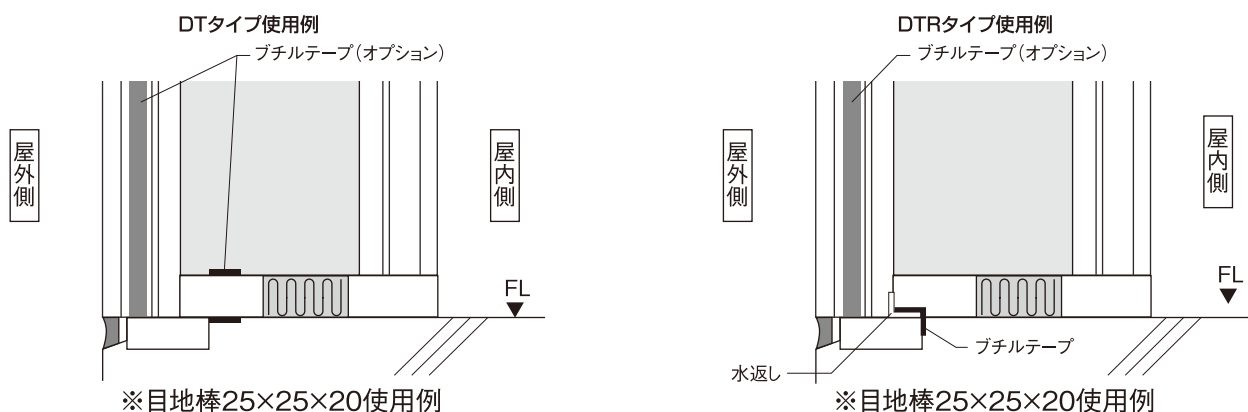
●製品規格

一般タイプ		水返し付き	
DTタイプ		DTRタイプ	
材 質	中空目地棒:ポリプロピレン 芯材:ポリスチレン発泡体		
製品長さ L=2000mm (水平スリットの製品幅)=(壁厚-55mm)			
無頭釘の釘ピッチ @200mm 端部から100mm			

水平スリットの製品幅



雨掛り妻壁の納まり図例

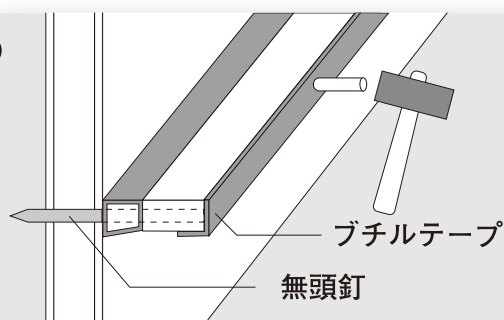


DTRタイプの使用例

・垂直スリットのカットはオプションとなります。
・受注生産となりますので、納期のご確認をお願いします。

施工手順

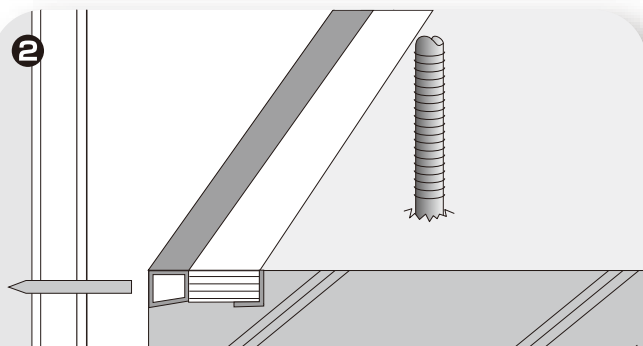
①



打ち継ぎ目地の取付

●型枠に水平スリット用打ち継ぎ目地を取付ける。セットされている無頭釘は完全に打込む。

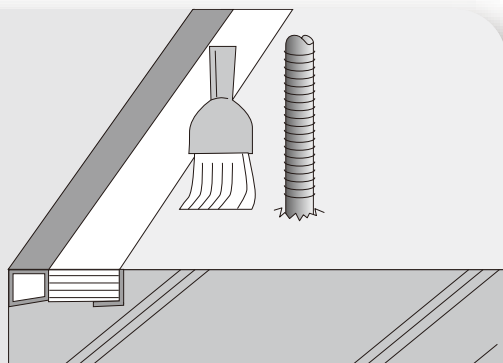
②



コンクリート打設後の型枠の解体

●コンクリート打設後、型枠を解体する。釘は型枠と一緒に外れ目地棒は躯体に残る。

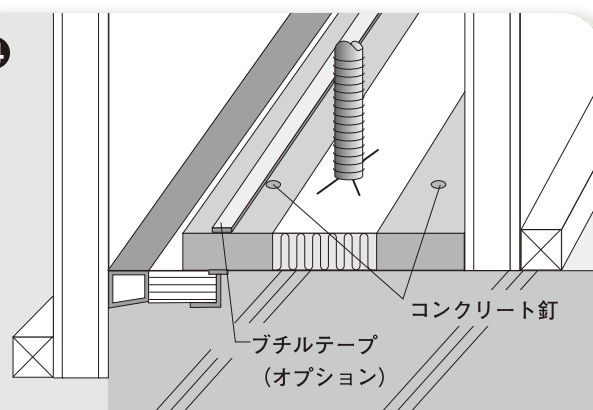
③



スリット取付部の清掃

●ゴミやホコリ等があると止水性能が落ちるため、スリット取付部の清掃を行ってください。(スラブ面)

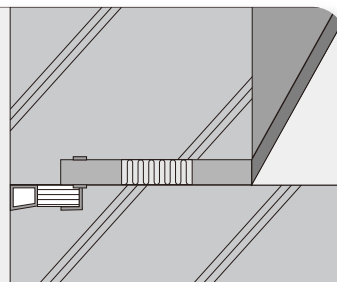
④



水平スリットのセット

●水平スリットを取付け、型枠を建込む。その際、目地棒は残っているので型枠を当てるだけでよく、打ち継ぎ時に発生しやすい段差が出来ない。

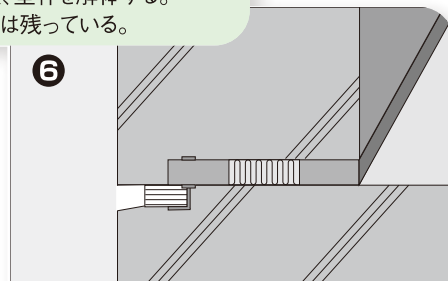
⑤



型枠の解体

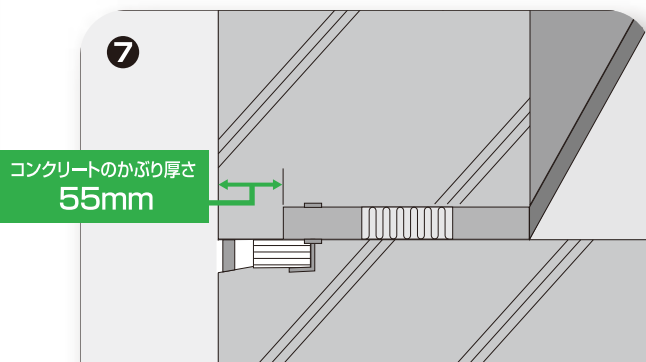
コンクリート打設後、型枠を解体する。この時点で目地棒は残っている。

⑥



目地棒を取り外す

⑦



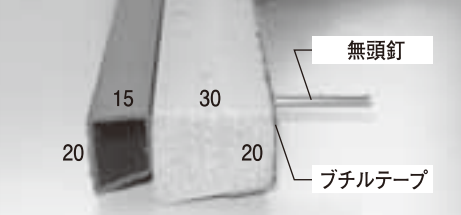
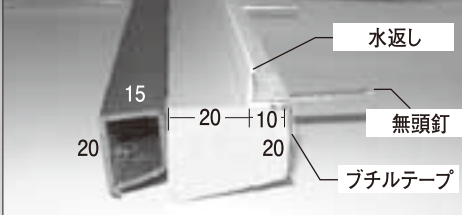
シールして仕上げる

バックアップ材を設置した後、シーリングします。

(注) 打ち継ぎ目地材は、梁の欠損になる場合があるため、ご使用の際は設計者にご相談お願い致します。

雨掛り妻壁用推奨部材

段差型打ち継ぎ目地材 UN、UWタイプ

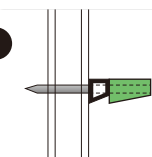
一般タイプ	水返し付き
UNタイプ	UWタイプ
	
材 質	中空目地棒:ポリプロピレン 芯材:ポリスチレン発泡体
製品長さ	L=2000mm (水平スリットの製品幅)=(壁厚)-(35mm)
無頭釘の釘ピッチ	@200mm 端部から100mm

目地上部のコンクリートの破損防止、雨水浸入防止対策として有効です。このように二次的な止水処理を施していればシール材が損傷しても雨水の浸入を防ぐことが可能となります。

外部から水平スリットまでの寸法が35mmを超える場合でもUN/UWタイプとも、目地材の材質及び形状の変更は可能です。現場の納まり等で変更希望の場合は発注前にご相談をお願い致します。

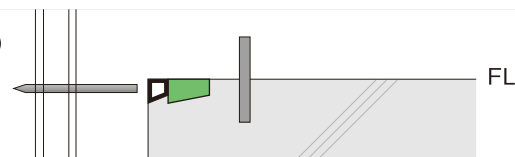
施工手順

①



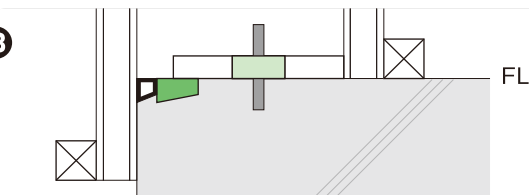
型枠に打ち継ぎ目地材を取付ける。
セットされている無頭釘は完全に打込む。

②



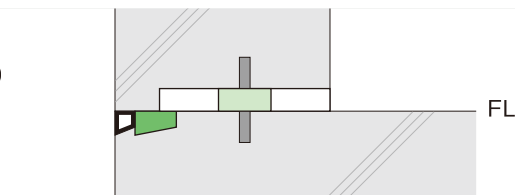
コンクリート打設後、型枠を解体する。
釘は型枠と一緒に外れ目地棒は躯体に残る。

③



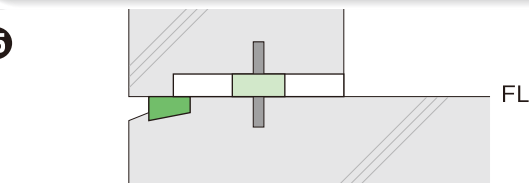
水平スリットを取付け、型枠を建込む。
その際、目地棒は残っているので型枠を当てるだけでよく、
打ち継ぎ時に発生し易い段差が出来ない。

④



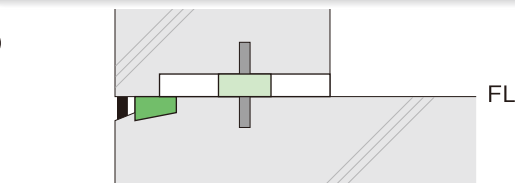
コンクリート打設後、型枠を解体する。
この時点で目地棒は残っている。

⑤



目地棒を取り外す。

⑥



シールして仕上げる。(バックアップ材を設置した後、シーリングします)

(注) 打ち継ぎ目地材は、梁の欠損になる場合があるため、ご使用の際は設計者にご相談をお願い致します。

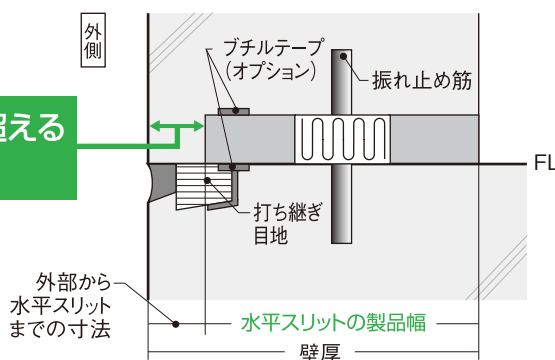
水平スリットの製品幅

通常は35mmですが

この寸法が35mmを超える
場合でも対応可能です

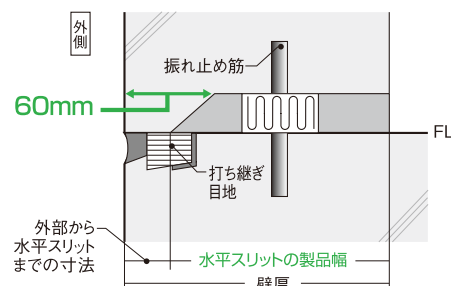
UNタイプ/UWタイプ

(水平スリットの製品幅)
=(壁厚)-(35mm)



<参考>

コーナークット(Cタイプ)を使用した場合

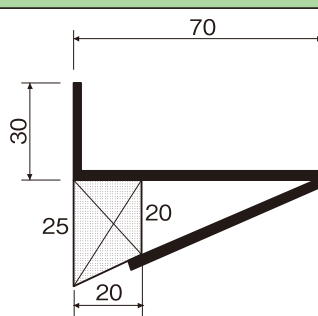


雨掛り妻壁用推奨部材

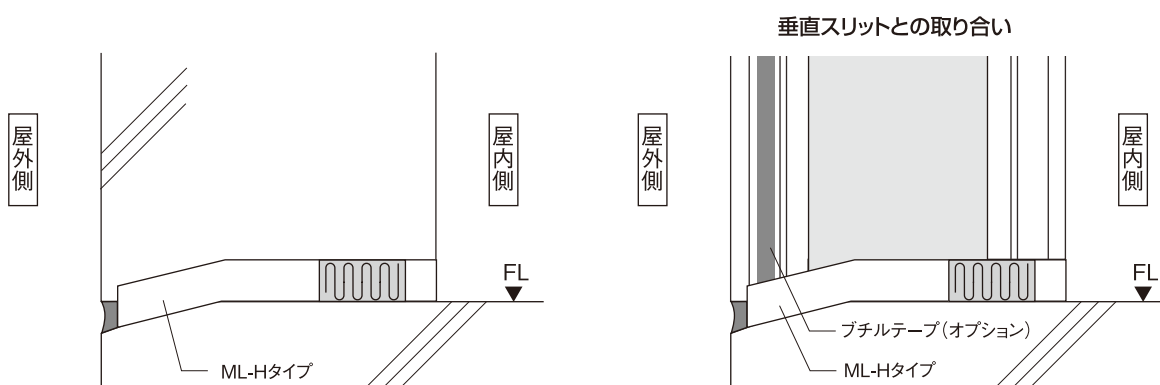
勾配成型用欠込み材 レベルJ

●水平スリットはML-Hタイプをお勧めします。

●製品規格

レベルJ	御注文方法
 目地棒 現場調達 25×20×20 片転び 定尺:2,000mm	●レベルJは、定尺2,000mmになります。本数をご指示下さい。 ●水平スリットは、スリット本体の寸法をご指示下さい。

雨掛り妻壁の納まり図

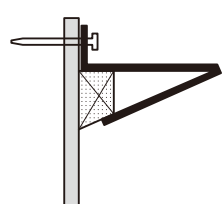


●レベルカット

- ・レベルJの勾配に合わせた垂直スリットのカットはオプションとなります。
- ・受注生産となりますので、納期のご確認をお願いします。

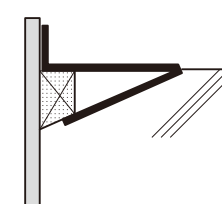
レベルJ 施工手順

①



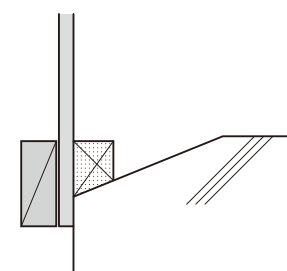
目地棒を取付け、レベルJをかぶせ丸釘で止めます。

②



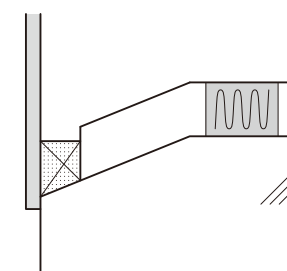
レベルJに合わせて、床コンクリートを打設します。

③



型枠を解体して、上階の壁型枠を建て込みます。

④



水平スリットを取付け、コンクリートを打設します。

試験データ

都市再生機構(UR)品質判定基準

都市再生機構URの品質判定基準に合格

●タイプ 垂直スリット MTタイプ
水平スリット MLタイプ

財団法人 建材試験センター 品質性能試験報告書(平成20年12月24日)の抜粋を以下に示す。

試験方法は都市再生機構 機材の品質判定基準(平成20年5月版)―II.建築編― 4.スリット材による。

試験結果のまとめと品質判定基準

発行番号:第08A2273号

試験項目	試験結果			品質判定基準
圧縮性試験	変形可能幅	水平スリット	24.6mm	●20mm以上であること
		鉛直スリット	27.8mm	
	変形復帰性	水平スリット	試験前の厚さ:平均31.8mm 復帰厚さ:平均30.2mm	●異常なく復帰すること
		鉛直スリット	試験前の厚さ:平均32.4mm 復帰厚さ:平均31.9mm	
セメントペースト浸透性試験	鉛直スリット及び水平スリットともにセメントペーストを吸収しなかった			●スリット材はセメントペーストを吸収しないこと
耐火性能試験	試験中非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出及び非加熱面で10秒を超えて継続する発炎は認められなかった また、試験中火炎が通る亀裂等の損傷は生じなかった			●非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出がないこと ●非加熱面で10秒を超えて継続する発炎がないこと ●火炎が通る亀裂等の損傷を生じないこと
	裏面最高温度	To(初期温度)は10℃(水平スリット)及び11℃(鉛直スリット)であった スリット部の裏面温度において、裏面最高温度(水平スリット:190℃及び鉛直スリット:191℃)を超えなかった		●加熱中の裏面最高温度Tmが次式に適合すること $Tm \leq 180 + To$
	裏面平均温度	To(初期温度)は10℃(水平スリット)及び11℃(鉛直スリット)であった スリット部の裏面温度において、裏面平均温度(水平スリット:150℃及び鉛直スリット:151℃)を超えなかった		●加熱中の裏面平均温度Taが次式に適合すること $Ta \leq 140 + To$
層間変形 水密性試験	層間変形	層間変形角1/800rad、1/200rad及び1/100radの各層間変形試験においてスリット材の破断、ずれ等の損傷は認められなかった		●層間変形角1/800rad、1/200radの各層間変形試験において、スリット材に破断・ずれ等の損傷がないこと
	水密性	初期性能、層間変形角1/800rad履歴後及び1/200rad履歴後の各水密性試験において室内側への漏水は認められなかった		●初期性能の水密性試験において、スリット部から室内側へ漏水がないこと

解 説

弊社が都市再生機構(旧公団)の品質判定基準に対して解説したものであり、上記の内容をご理解するためのご参考をお願い致します。

●圧縮性試験

変形可能幅 スリット材の厚さから残存幅と圧縮幅の合計を差し引いた値で、地震時に変形可能な幅を示します。

残存幅:コンクリートの圧縮強度に相当する
21 N/mm²の荷重を加えた時の厚さ

圧縮幅:0.05N/mm²の荷重(施工時の側圧に相当)
をスリット材全面に加えた時の圧縮量

変形復帰性 スリット材(試験体の厚さは25mm)を15mmまで圧縮し、荷重を0に戻す。これを5回繰り返した後、荷重0時の厚さ示し、中地震動程度の地震に対して、地震後も初期性能を保つための復元性があるかを見ています。

●セメントペースト耐浸透性

スリット材はセメントペーストが浸透するとスリット材としての性能が維持できないため、セメントペーストが浸透しないかを見ています。

●層間変形・水密性試験

層間変形 層間変形角1/800rad(梁下寸法2000mmで約2.5mm)、1/200rad(梁下寸法2000mmで約10mm)、1/100rad(梁下寸法2000mmで約20mm)に相当する変位をプラス側とマイナス側に交互に5回(1/100radの場合は1回)与えた場合に、スリット材の破断、ずれ等の損傷がないかを見ています。

水密試験 初期性能、層間変形角1/800rad、1/200rad変位を与えた後に水密試験を行ない、室内側に漏水が認められないかを見ています。

試験データ

2時間耐火性能試験 遮音試験

2時間耐火性能試験

2時間耐火性能合格

- タイプ 垂直スリット MTタイプ
水平スリット MLタイプ

●試験内容

ISO834-1(耐火試験-建築構造部材)に規定された加熱曲線に従い2時間の加熱試験を実施しました。

●試験結果

(1)遮熱性能

スリット部裏面温度(非加熱側)は、規定温度以下であった。

(2)遮炎性能

加熱中及び加熱終了後において、鉛直スリット及び水平スリット共に裏面側(非加熱側)での火炎の発生及び亀裂等で貫通する隙間は認められなかった。

●品質性能試験報告書

厚さ	発行番号
25	第08A0673号
30	第08A3769号
35	第07A2638号
40	第10A4305号
50	第10A4306号

財団法人 建材試験センター中央試験所にて実施

遮音試験

試験内容

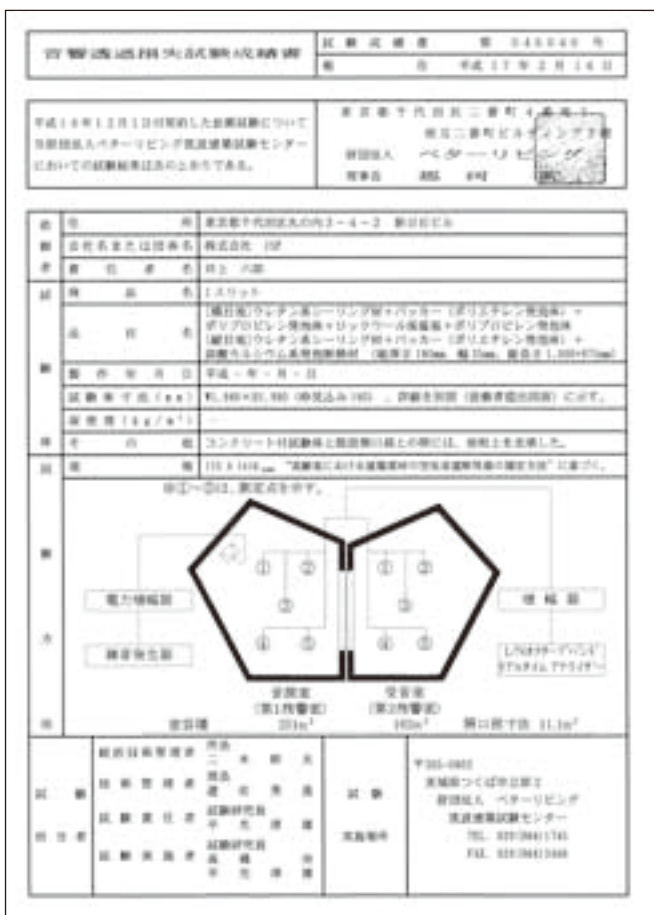
垂直スリットと水平スリットを入れた、コンクリート厚さ180mmの試験体をJIS A 1416(実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法)に従って音響透過損失測定を(財)ベターリビングで実施しました。

試験結果

厚さ180mmのコンクリート壁で遮音等級Dr-55相当の結果が得られました。

日本建築学会適用等級について

適用等級	遮音等級	遮音性能の水準	性能の水準の説明
特級(特別仕様)	Dr-55	遮音性能上、特に優れている	特別に高い性能が要求される場合の性能水準
1級(推奨)	Dr-50	遮音性能上、優れている	日本建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級(標準)	Dr-45	遮音性能上、標準的である	一般的な性能水準
3級(許容)	Dr-40	遮音性能上、やや劣る	特別に高い性能が要求されない場合の性能水準



発注

発注時の確認事項

右の発注書にてFAXお願い致します。製品はすべて受注生産ですのでお早めにご発注下さい。
受注生産のため、返品・交換はお受けできません。

納期

通常品 中1日 特注加工品(切り欠き加工、レベルカット等) 中2日
*一部地域では、通常品でも中2日以上かかる場合があります。事前にご確認お願い致します。

運送方法

時間指定便ではございません。
AM着希望の明記は致しますが、お約束は出来かねます。ご了承下さい。

垂直スリットの発注方法

参照ページ

タイプの選択	自立型MTタイプ、自立補強型MGタイプ、JLVタイプ 壁厚210mm超の場合は自立補強型での施工をお勧めします。		P3、P5、 P6～P9
壁厚	必ず、ふかし込の壁厚を記入		P3
厚み	25mm、30mm、35mm、40mm、50mmです。 壁の高さ(階高ー梁成)の1/100以上の厚みが目安となります。		P3
長さ(定尺)	L2025mm、L2300mmでの本数をご指示下さい。		P3
目地棒サイズ (現場調達)	必ず、○印をつけて下さい 厚み25・30・35mm品/25×20×20・25×25×20 厚み40・50mm品/30×25×25		P3
止水テープ貼り (オプション)	屋外側力骨材両サイドにブチルテープを貼り付けて出荷します。 厚み1mmまたは3mmのどちらかをお選び下さい。		P3
鉄筋穴加工 (オプション)	穴径13φで下から200mm以降400mmピッチで加工します。		P3
補強金具	MGタイプ用	タイプ欄にMG5、MG10のどちらかを記入すれば、 必要数を同梱します。	P4、P7
	JLVタイプ用	対応する壁厚に応じてJLV台座の種類に○印をつけ、 取付金具の必要個数を記入願います。	P4、P8
切り欠き加工	段差型打ち継ぎ目地材DT、DTRタイプ使用時に、必要な場合、水平スリットの厚みをご指示下さい。		P15
レベルカット	レベルJの勾配にあわせたカットが必要な場合は、備考欄にレベルカット(LC)と記入して下さい。		P18

水平スリットの発注方法

参照ページ

タイプの選択	耐火品 MLタイプ、ML-Mタイプ、ML-Kタイプ、ML-Hタイプ 非耐火品 Lタイプ	P11
製品幅	必ず、製品幅を記入。 (製品幅)=(壁厚)ー(目地棒の深さ)	P11
厚み	25mm、30mm、35mmです。40mm、50mmは、受注生産品です。 基本的に垂直スリットに合わせるのが一般的です。	P11
長さ(定尺)	L2000mmでの本数をご指示下さい。	P11
止水テープ貼り (オプション)	ブチルテープの貼り付け位置でAタイプ、Bタイプに○印をつけて下さい。 幅15mmの場合、厚み1mmまたは3mm、幅50mmの場合、厚み1mmのみ。	P11
コーナークット (オプション)	屋外側のポリエチレン発泡体を45°でコーナークットします。	P11

ゼネコン様名	ご担当者様		
現場名	TEL:		
現場住所	携帯電話:		
納期	年	月	日
取り扱い代理店	様	ご担当者	様

垂直スリット
MT

MTタイプ …自立型
MGタイプ …自立補強型
JLVタイプ …自立補強型

【壁厚210mm以下(ふかし込み)の対応】
【MTタイプ+MG金具セット】振れ止め筋は現場調達。
【MTタイプ+JLV台座+取付金具】取付金具は必要個数を別途発注。

タイプ タイプを記入	垂直スリット		数量		オプション 必要時○印				備考欄	目地棒サイズ (現場調達)	検品幅 JSP記入
	壁厚	厚み	L=2,025mm	L=2,300mm	止水	鉄筋穴	切り欠き加工	JLV台座			
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180		必ず○印 厚み25・30・35mm 25×20×20 25×25×20 ----- 厚み40・50mm 30×25×25	
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180			
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180			
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180			
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180			
		25・30・()	本	本	厚1・厚3		25・30・()	60・100・140・180			

- 必ず壁厚と目地棒サイズをご指示ください。
目地棒サイズは、厚み25・30・35mm品は25×20・25×25×20、厚み40・50mm品は30×25×25です。
- 壁厚210mm以上、腰壁等の場合は、MGタイプ、またはJLVタイプでの施工をお勧めします。
- MGタイプの場合は、MG5かMG10のどちらかをご記入願います。
- JLVタイプの場合は、JLV台座の種類に○印をつけ、取付金具の必要個数を発注願います。

JLVタイプ用取付金具	
取付金具	数量
JC金具	ケ
JCL金具	ケ
JB金具	ケ

水平スリット

耐火品 : MLタイプ・ML-Mタイプ・ML-Kタイプ・ML-Hタイプ
非耐火品 : Lタイプ

タイプ タイプを記入	壁厚	水平スリット		数量 L=2,000	オプション 必要時○印				備考欄
		製品幅	厚み		止水 幅15mm		止水幅50mm	コーナークット	
					厚1mm	厚3mm	厚1mm		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		
			25・30・()	本	A ・ B	A ・ B	A ・ B		

水平スリット用打ち継ぎ材

定尺 L=2,000

品番	数量
DTタイプ	本
DTRタイプ(水返し付き)	本
UNタイプ	本
UWタイプ(水返し付き)	本
レベルJ	本
特注品	本

推奨副資材

副資材	種類	数量
非加硫ブチルゴム系シーラント	J-3000	本
鉄筋養生カパー	D10用 L:2000	本
構造スリット材保護キャップ	D10・D13併用 1袋：300コ	袋

*上記、はJ-スリットと同梱します。

副資材	種類	数量
サビ止め振れ止め筋 D10用 L: 550	Aタイプ・部分サビ止め	本
	Bタイプ・全サビ止め	本

*J-スリットと別発送につき別途運賃がかかります。

備考欄	手配 No.	確認印
-----	--------	-----

⚠ 注意事項

使用に当たっては、**施工手順、注意事項等をご確認の上**正しくご使用ください。

本商品の正規の使用目的、用途、方法以外に使用された場合には責任を負いかねますので
ご了承ください。

カタログ記載の規格、仕様は製品改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

【保管時の注意事項】

- 直射日光を避け、水濡れや汚れを防ぐようにして下さい。
- スリット材の一部は不燃材ではありませんので、火気には十分注意してください。
- 力骨材には突起がありますので、破損などに十分注意を払ってください。
- 円型ストッパーは、寒冷地では室内に保管してください。

【J-3000の注意事項】

- 直射日光を避け、屋内冷暗所(5～40℃)に保管してください。
- 開封後は使い切ってください。
- 火気厳禁

【施工時の注意事項】

- 目地棒は**ラワン材**で、力骨材の寸法に合ったものを使用してください。
厚み25・30・35mm品/推奨サイズ25×20×20 25×25×20mm
厚み40・50mm品/推奨サイズ30×25×25mm
- ラワン製目地棒は**釘ピッチ200mm以内(端部は50mm以内)**で型枠へ取り付けてください。
- 垂直スリットを繋ぐ場合、長さが短い方を必ず天井側にして取り付けてください。
- 止水テープが貼ってある場合、止水テープが屋外側にくるように取り付けてください。
- 補強金具は必ず施工手順通りにしっかり取り付けてください。**
- 壁厚の厚い時や壁の高さが高い時、腰壁等に使用する時にはなるべく細かいピッチで補強金具を付けてください。
- MGタイプの場合、鉄筋を差し込む穴は、13mmφで下から200mmに1箇所、そこから400mmピッチで開けてください。
- コンクリートを打設するときは、片打ち高さ1.5m以内を厳守し、両側から均等に打設してください。**
- スリットに直接バイブレータが当たらないように注意してください。

株式会社 **JSP** 第一事業本部 建築土木資材事業部 ホームページ <http://www.co-jsp.co.jp>

東日本建材統括部

札幌営業所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西1-1(サンメモリアビル) TEL 011-231-2681(代) FAX 011-231-7850

仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1(仙台興和ビル) TEL 022-262-3271(代) FAX 022-266-9583

建築資材グループ 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2(新日石ビル) TEL 03-6212-6362 FAX 03-6212-6369

西日本建材統括部

名古屋営業所 〒460-0003 名古屋市中区錦3-4-6(桜通大津第一生命ビル) TEL 052-962-3225(代) FAX 052-962-3252

大阪営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町1-6-16(いちご塚筋本町ビル) TEL 06-6264-7903(代) FAX 06-6264-7913

広島出張所 〒732-0052 広島市東区光町1-12-20(もみじ広島光町ビル) TEL 082-568-0566(代) FAX 082-568-0577

福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-12-17(五幸ビル) TEL 092-411-6854(代) FAX 092-474-1796

工場 北海道工場、鹿沼工場、関西工場、九州工場

お問い合わせ